

安政見聞誌
下

ヲ 1
3766
3



門 71
號 3766
卷 3

2164
3

江戸川城の見附は三十二ヶ所あり
 其後、心算して行きても被換せざるあり
 然るに四谷川の橋へは根より石垣
 ありて凡そ高きありたるおとと又
 堅固なりと城門もたててのりたれば
 おととあると取置敷の強と知る
 改小六子本方馬場前清門若くは
 其形に似て置かせしと大破する
 等して是れ一仕たう地震敷
 有と唯今後のおとと成りては是れ凡
 寺入國と云ふ之形ありと云及



昭和廿一年
 十二月 六日



藤のくさねんよ
 さるふはむゆは遠ふなり
 みてんふるとせむる人の
 そまき
 をてんとおぼろしとて後
 世のゆ一の種ふゆえんと
 あり

全親史



そまき高き小男
 一巻抄
 里の地下さりてあはれ眼
 眩暈さ足春南ふ是まきまわり
 心おこしおこしおこしおこし
 一余ふ及のんて屋室とあふふあふ像
 心身我懐するまふふ今夜の
 大愛あてあまてりし教まきの
 中ふふ屋室門ふまふふ
 石壁二千の余百坪六坪へ
 空頼あふふあふふあふふあふふ
 心しうあねも枝挿け根取のま
 住来ふ様さう屋敷ふふふ切石
 集てれく揺るまてり中ふふ
 ぬけあふふあふふあふふあふふ
 あり

指三破換為雨△馬田村日東方日為破口家丁少利陽也武家も備
 有破換雨多△姿見指也武家町家之破換△高田市場完八福本行
 日樓丁里日丁改代丁古川丁小日向也之破換為雨也中里丁矢来中
 赤城門外丁寺丁大破換白銀丁半也門外之破換為雨多
 △半也門外之破換為雨也表側破換為雨也日雨為雨也為雨也
 丁山仰丁杉並土好馬丁日雨組也之破換為雨也△林樂坂田丁丸内飯より
 西方以納丁加賀中武家町丁破換為雨也△市若門外尾別破換為雨也
 川田ヶ窪大久保也指為破換也月樓寺南方為雨也△日若門外
 輪丁万年極指為雨也△本村丁以丸丁寺丁修也丁大破換為雨也
 浄雲寺換丁為雨也△傳丁破換為雨也△陸丁大破換為雨也△大木寺
 南方為雨也内者好馬也内者後河橋下中死破換日為方切也日組
 屋南方大破換△喰遠外破換為雨也丁也大破換日為方大者丁

△市飯門外紀別換泰平日雨幾ヶ橋仲丁小丁後邊也丁大破
 換為雨也南方大破換為雨也△大為過住橋小治子日為破換為雨也
 △寺山武家町家為雨也△赤宿日以△外也夫也也破換為雨也△寺若
 也也大破換為雨也△塔の内妙法寺不也寺也門外少破換△赤坂田丁為方牛
 鳴坂是淋也のり破換為雨也△長考丸也也破換為雨也
 △麻布日ヶ窪也也為雨也△今井岩破換為雨也△大木本為雨也△新去
 武家町家也為雨也△并指也也破換為雨也△湯原也也△湯原也也
 坂上大破換△市若門丁也大破換△長坂也破換為雨也大破換也
 例也為雨也△以人坂為雨也△目黒不動本寺也寺也境内破換為雨也
 丁大破換△瑞雲寺也也門外丁破換小也也為雨也
 △虎門外邊坂是也為雨也市若門丁也方大破換為雨也△西の久保大破換為雨也
 家也△妙せんが長大破換武家町家也為雨也△飯倉平丁大破換丸也也又為雨也

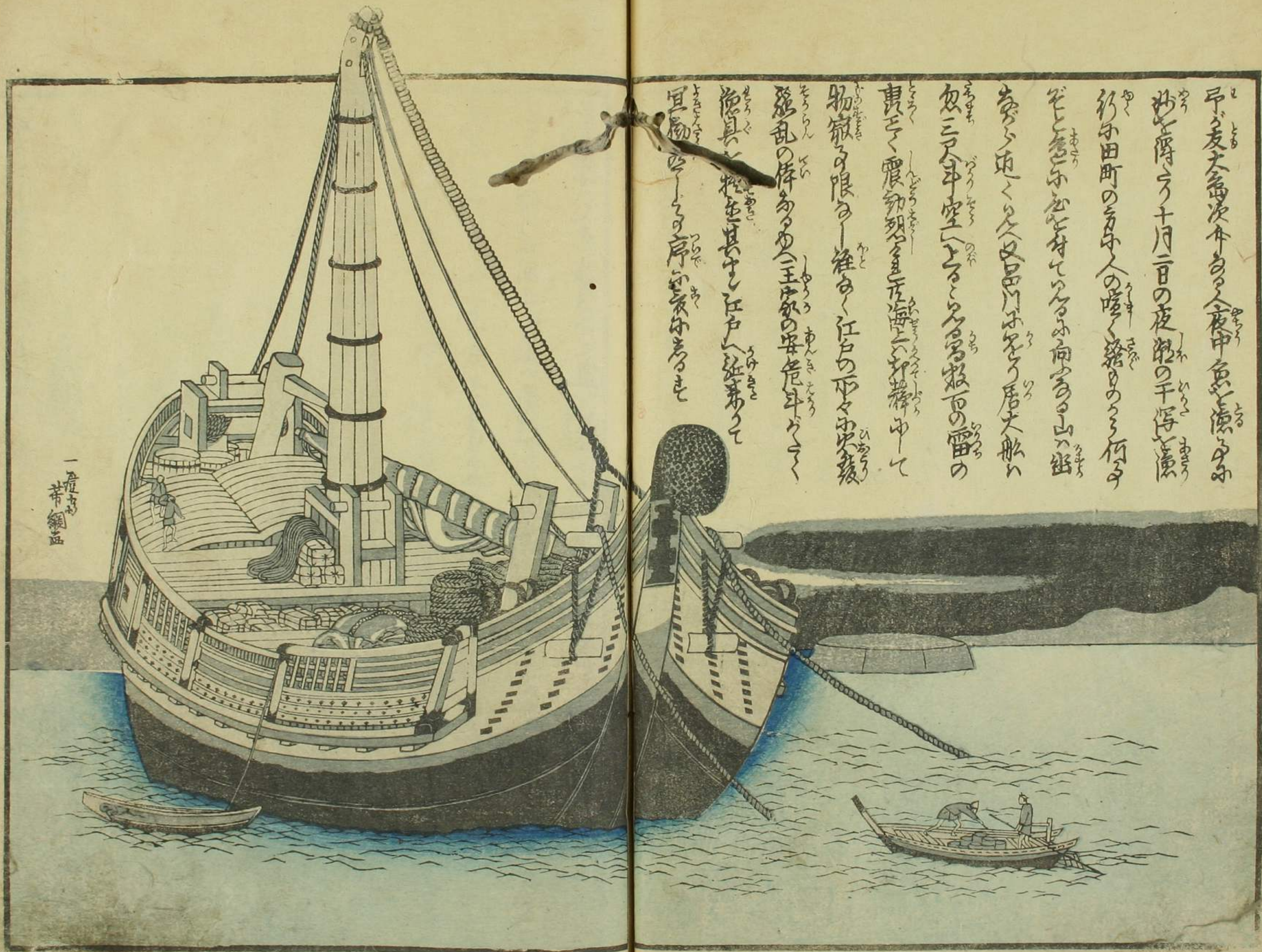
○今宵の地震にて破損の程を
 由緒甚敷く葉井丁の焼失
 の屋敷にて西の方神明前
 三番丁門前丁の二日の夜
 の二家の大道へ倒落すま
 本尾ふて山のおどろけ
 火災のあつりし各公の
 ちんまより渡家の下
 怪我者一人もなき
 毎根のまう様と突て
 五つを何て
 破損の甚く幸仕



三日月は南方七折丁
 丁のまの初揺
 後家
 他外
 今夜
 神威

初から國民
 神一
 佐
 筆





甲辰大高浪本ある人夜中魚と漁るふ
 妙と傳へ十月二日の夜船の干海と濱
 新小田町のきふ人の噂と船のさう何と
 ぞし急ふふと舟をたつふ向ふの山に出
 ちかちか近くとも又山にふたつ居大船の
 忽ち空へとるともなる船の雷の
 東とく震動船をまき海とく舟をゆて
 物敷る限る一柱も江戸の町々におぼ
 強風の伴あるあま王の家の母危年とく
 漁具と船を其れに江戸へ運ぶあつて
 巨船のさうの序におぼあること

一丁
 新編

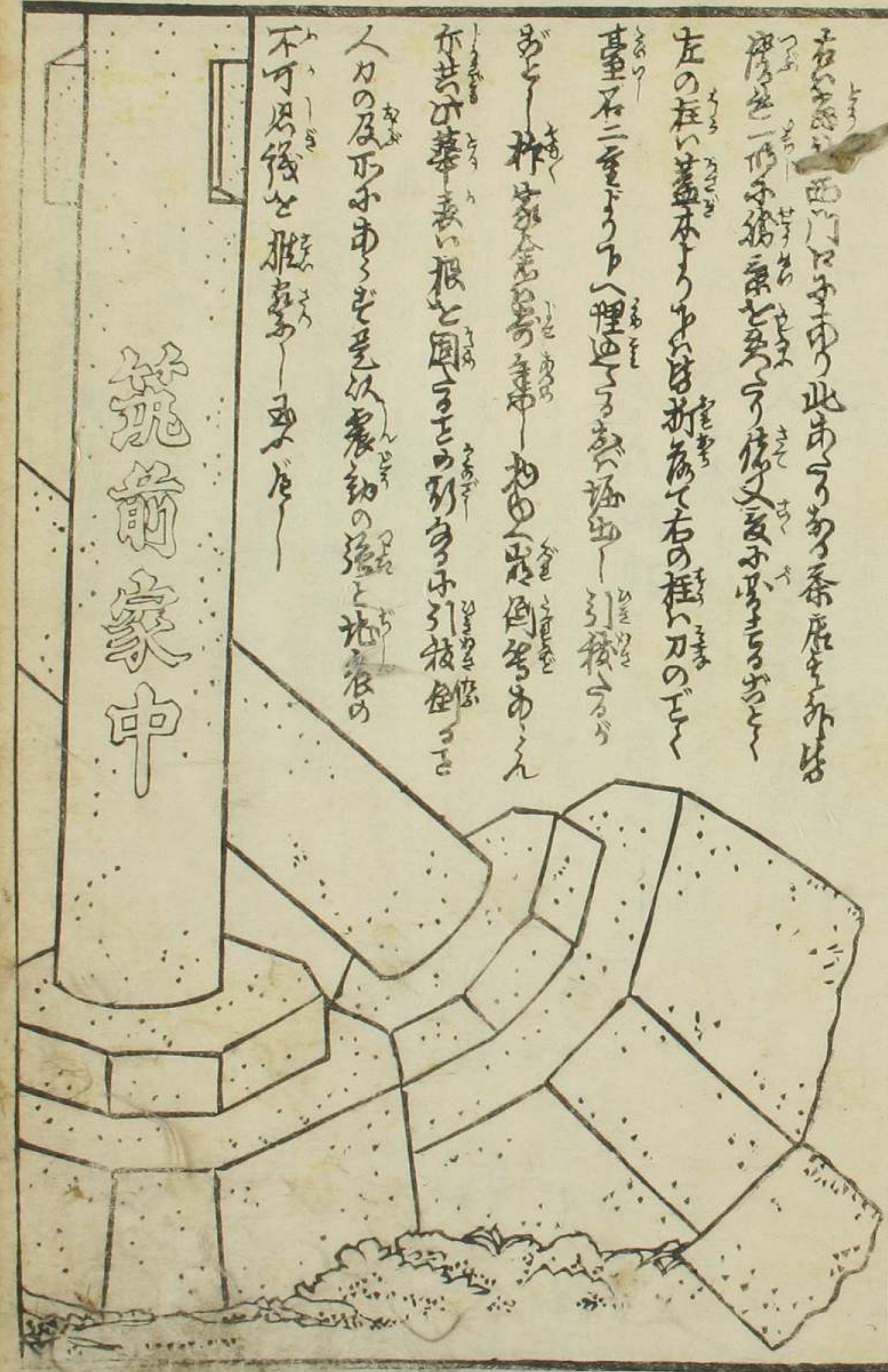
△平が女小泉氏と絶の方要るをそ兼居る右大地表小て江戸表大火の事と
 きく平を拾て道邊に遺棄せしむるに信を来は十月四日夜丑刻に小村井小
 て年の程廿四才女二十才の火と相見する小村舎に於ておんをよて是を
 又んとする小其容儀くさる女を其其の夫のまゝを家小止す一又
 又丁半する小小^④中付るをちんと賜へ兼居る人出有る小泉と約合小見有る
 連綿する夫とををのむと問ひ答ふの女のまゝを燈小相見人今も道邊をまの
 叶へる程に返るんとえさく一返へ返るあ小泉を放す事小泉村左丁長の
 妻由女といふ老地農の好澤中を放す二才の小火と相見ると兼居る中を放す
 人いらく之殺ふまを不復へと兼乳をま其を小任せと父の痛小泣く小夜
 其火と取中一乳と十分小のませ家内他列とまをまを居居てあ余あ火
 成るの傍らぬ因之小泉の放女の時う程く詰せむの母の亡魂中へ我子の
 怨念小ひききお方小て乳と兼居て又連綿するんと云小果を長あうらう

繪 天神社内西口華表圖

二重の磐石より下右四尺八寸半あり
 左の左柱の磐石より半の埋きあり

右の磐石より西門口より此ありある茶店をみは
 浮遊を二つ小橋を築きてより傍ら又みまをまを
 左の柱の蓋本より中は折れて右の柱の刀のご
 臺石二重より下へ埋せたる磐石中へ引接する
 あり一柱は磐石よりあり兼居るあり兼居るあり
 亦其の華表の根と圓するものあり小引接する
 人力の及ふありまを以て震動の強と地液の
 不可思後と推察あり一あり

花前家中



△電氣中ノ敷小池色枯炭上中ノ登炭被損懸絶
 △其儘与院大破損△万年山寺松与同トク△電氣社大破
 損有リ△三縁山堀上寺院房才大破損最下多一△切寺大木
 或家屋炭大破畧之△同不令地院大破
 △新ニ橋外南方徳廣大破畧之△本代地町大破損最下多
 同南方兼房町寺丁中焼言先と疑ふ中り小流是家あり由
 方相半去於屋炭より之家儘きあり同不伏見丁おち丁久保丁
 あり丁長左衛門丁等大破損ト最家多一
 △山下河門外口敷小登之絶り人
 一 尚百歳字費文 形多丁巳丁目
 一 小池 二十費文 寺三所地信 尾所 六右宗
 一 一 裁 是 筋 本換丁丑丁目と納地 家指 徳三所
 一 一 二 百 文 〇

△三田色赤形橋向ふ有馬彦小古屋水天宮系指門の隣
 より東の方へ百里有余揺屋あり△薩只振表お見破損
 其外は也或家屋炭大破損有△堤坂東為大破損有
 △古町最下多一
 △樹木炭大破損最下多一△いさらと大破損△二本板炭下多
 △池上本門与大伽藍懸く△其門不石垣破損有
 △今松橋南方本芝多り破損あり△とも最下多一
 △田町より大破損あり△とも最下多一△本町与瀧小町南町
 小水川伊和登と云旅籠屋一軒洪きそ外大破損
 △芝下新後炭大破損あり△とも最下多一

一 萩漢 一 橋
 一 生 一 橋
 一 生 一 橋
 一 橋 一 橋

本道左所橋炭表示 百姓
 下徳玉水寺敷布依村 七所云示

△一栴子百栴 赤門八幡社門
小救小庄に施す 三月十日 平芝屋 春七

一同 平芝屋 赤門八幡社門
小救小庄に施す 同 人

△柴井町友側とも是丁焼る為に仙臺板中屋交茶あて
止る為に會津板中屋交茶あて止る

△一全武茶々町門下 三月十日 坂屋 茶

此、茶茶々柴井町に施す

一全武茶々町門下 同 丁 杵屋 茶

此、茶茶々柴井町に施す

△仙臺候 伊講慶邦今交此表不付て隣玉々法張へ宛茶

松板取手收るを不付て以入用所を元出納戸令ふて物茶を不付門茶

以所を老才焼失す不付て辰搦法を必出に証深さるべきとて即日

以所焼るに玉茶 二年二斗入 茶張り別不坐思し可下さる

又町役の若書人吳若人長あ令二分下漏て下さる本年は武家方は後約の

抽る不付の丁にた教長の杖儀成給へ久人教の報難成報ひあつて物茶

茶々々減減ふ給るの久若く小柴井丁の住長函書申渡世とせざる何茶

あつて右は教を頂のて海へ控へて教儀成給へる住長もあつて世に大減

りゆへに教儀成給へる中りの會成給へる小若く申渡の口端あつて人齋果あつて

知方へ教けんて教へる小若く申渡の長え教へる久人冷方も控た困りへ令

色教を不付申へて是を守る友人これをもて信物の大思ふに年無下り

是れを不付申す方の信物も亦と給へるにたのめり

△仙臺焼焼明石丁下水丁外丁は方焼る松平法路板下申した焼焼日下細門

徳也板大板板申和丁燒丁木大板板板申く焼失日あへ△柴井町一春大板

板申△本彩も本堂板板申中増房大板板板申あつて日不教る板申方板

町家板板板板申あへ△本版田丁年板申あつて大板板板申あつて板申丁

焼籠牛修繕... 大波岩西... △青丁堅様丁... 廻板指し色...
焼籠牛修繕... 大波岩西... △青丁堅様丁... 廻板指し色...
焼籠牛修繕... 大波岩西... △青丁堅様丁... 廻板指し色...

△小門丁一... 焼籠牛修繕... 大波岩西... △青丁堅様丁... 廻板指し色...
△小門丁一... 焼籠牛修繕... 大波岩西... △青丁堅様丁... 廻板指し色...

- 一 小石川内...
一 藤原...
一 金武...
一 杉平...
一 金武...
一 表園...

西之舟一△同右方以庭河岩橋為坊濱丁若吾川丁日也△人於丁城丁

青屋丁村木丁而破換為西多△小綱丁堀江丁小舟丁辺方事燒其

物也也新家火為而少△小田系丁津大相丁江平橋也破換為古為而少

△日本橋少方室丁十好系今川橋之也破換為多為而少△支替丁渡河丁

敷寄屋丁不庭河界之の内而破換為而少△日西方寺登橋内城也破

大破換酒井たの橋小室系上中元破換夏目元左破換△龍口南南

橋奏屋為細川橋長橋内松元橋松平傳豆橋之破換為而少小江橋而表長

為渡を外破換△日西方松平丹波橋水田園橋後橋と新橋河砂橋上

為渡河也也破換為而少

△大名小江戸破換為而少△叔奈屋橋内永井堂江橋本多中橋換中けり

松平吉系換去并大破換之破換之也火是也

△四代河津岸定火浦中元林大寺換是度相与換之燒日而周別換本台燒

と道あり止る竟に南河津橋換本道方懸馬る

△四代河津岸の内本多誠中換はる屋本多表懸橋換世橋換河井右系換

大破換為而多也多一松平中橋換内後代橋換也けり

△和国倉江の内松平紀後換日向守元日而江之深青而也けり松平傳換

換上屋敷大破換

△四代河津岸の内本多誠中換はる屋本多表懸橋換世橋換河井右系換

△日西方方代友丁大破換為而多

△中津江の内大破換

右之介は河内町武家寺院官社所家寺方と也相代渡方台は渡

篇小野寺也

明暦二兩年

正月十九日江戸火

あて焼亡七十八千五依之本所小

熱宗山無極寺回向院と建在在て

右追福と修せしめり其を其大少思ひしる

今後の強札右の高より多しこりてあり

何ゆて其敷を修せしめり其大少思ひしる

諸宗の寺院發千あり其塔中を加へ

一寺小五人宛奉るあり廿万余と云云

是日あるもゆり其深く考へる

實由明暦より通小を修せしめ

初て修りあり衣履火焼つてより死傷を

我共多く送ふ也又四斗格小入車小の言其

吾花院小送る容あり其小修り日余也

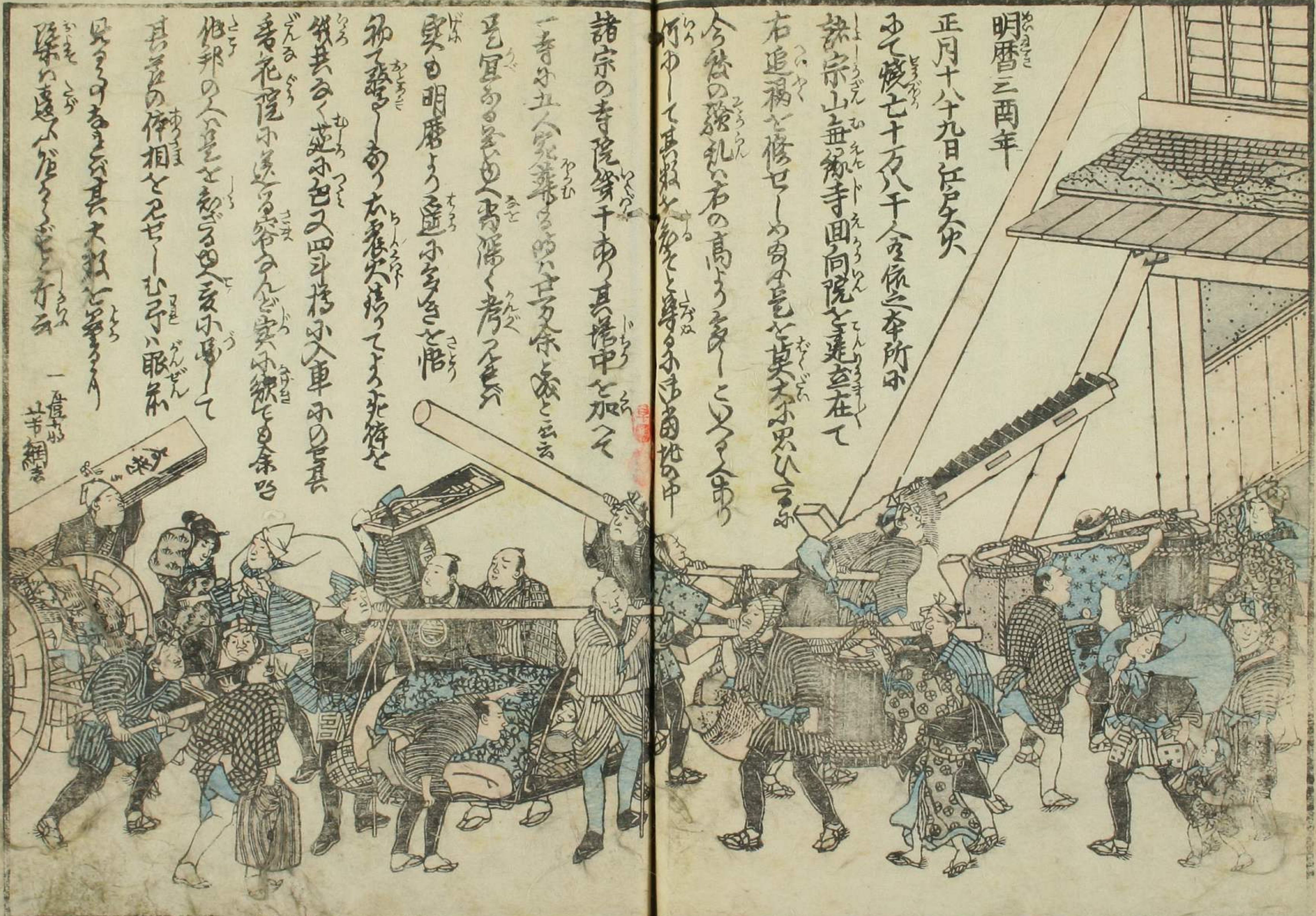
他邦の人を是と修る也小思ひし

其其の伴相を名せしむり眼を

見たり其其大敷を修りし

修り遠く修りし

一寺細



○府内火災之脆きん者も住居等まで

焼たれ又かき流すとあきさまに倉の多きもの

は地味隈り地味も多きあり一物中倉の穀多

かり焼布花より四方とる小け下より倉の穀と

る所り又化取小か一物中倉家の破抜ハ眼小

止るべき共震花揺る一土の散乱せ一俵ハ

安小救急小倉多り勿論古蔵小下り安俵

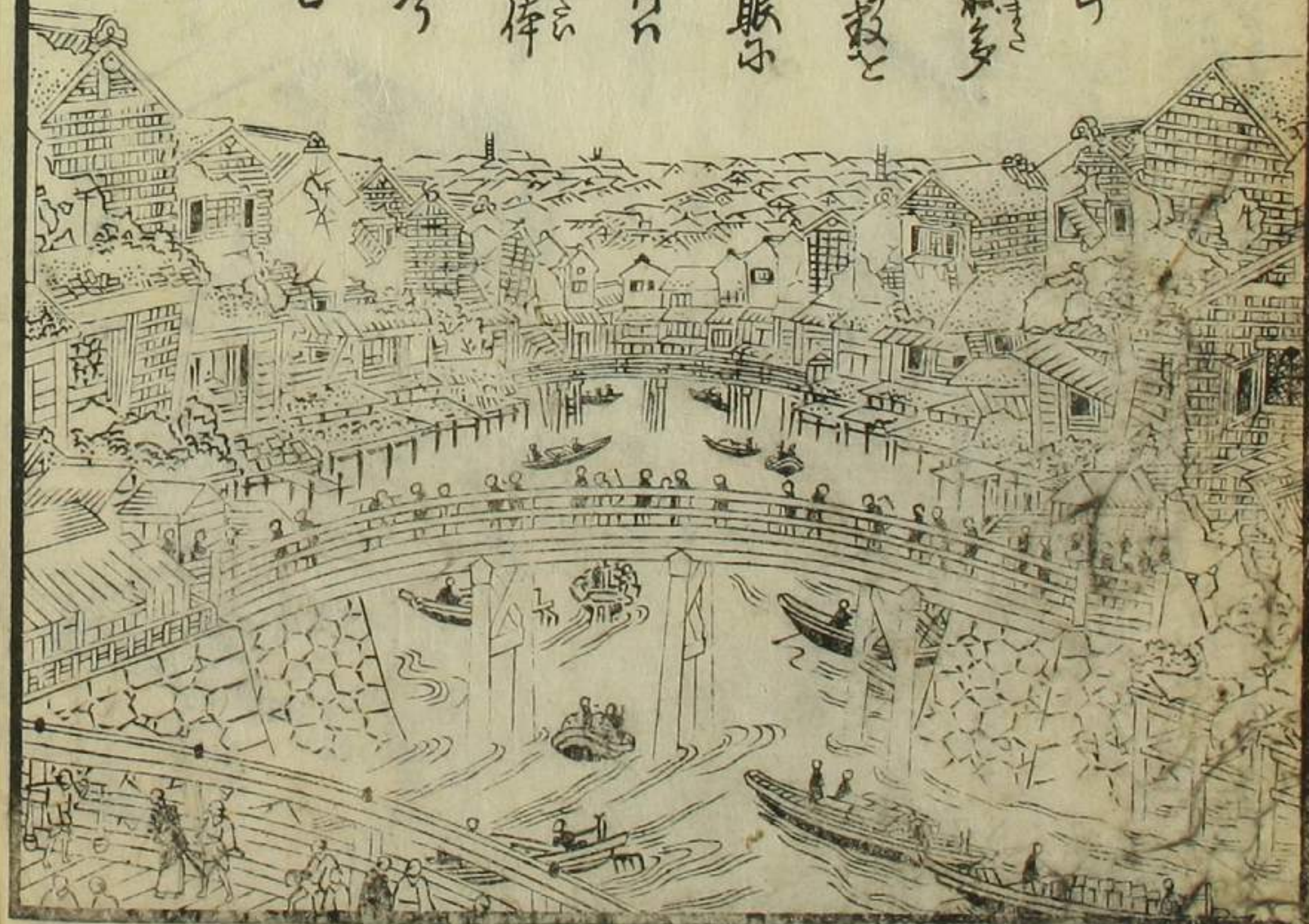
ありわーといふも俵俵ハ又破り一まきい今

苦ふあるも一化境を風の人小あるも一む

初示小長夏あつらふせん火災あつらふ

又俵船といふべし

一層の
甘藷草



△折を死背のりハ法書小物といふも當代の人人於ては小知りしものば
 まづ二年未のりハ眼筋ふりる所あれば他人疑ふもあべりハ茶袋
 のまきとるるるの茶の種とて不純也。○文政十二癸亥年五月を茶袋を利始り
 ○天保之辰年二月を茶令を利始り同六年七月百文錢を利始り
 ○同七年法皇不承三月百文付茶令八夕飢死のを多し是より
 茶七十一年法皇天明之年百文付茶令又同七年八月百文付茶令
 其時序ハ法不承とて角力ハ大入大禁胃又芝居ハ中村秋吉(あきよし)の衣袴(いばか)を
 箱書(いばか)所食(あけ)松(ま)して角力ハ大入大禁胃又芝居ハ中村秋吉(あきよし)の衣袴(いばか)を
 小(こ)大(お)大(お)更(さら)不(な)純(じゆん)體(たい)不(な)あ(あ)る(る)是(こ)是(こ)全(ぜん)く(く) 以(も)つ(つ)り(り)小(こ)救(きう)の(の)名(な)厚(あ)る(る)小
 考(こう)不(な)あ(あ)る(る)一(いつ)○天保八酉年ハ裁判を分報を利始り○同九年法
 小(こ)不(な)作(さ)百(ひゃく)文(ぶん)付(つ)茶(ちや)令(れい)ハ八(はち)夕(じゆう)救(きう)也(なり)○十二(じふに)年(ねん)十(じゅう)月(げつ)十(じゅう)日(にち)より天(てん)中(ちゆう)改(か)年(ねん)
 芝(しば)居(い)ハ法(ほ)皇(こう)人(にん)智(ち)地(ぢ)所(じよ)に花(はな)屋(や)を掛(か)け仲(な)る(る)惣(そう)令(れい)法(ほ)皇(こう)上(じやう)小(こ)免(めん)と(と)る(る)信(しん)賞(しょう)

△市井前のある葉巻をく或人か發小云来り休息の後橋掛より
 又歩きてその村小智發昇杖と建言強よりある湧出が亭に
 ある後小智ひきまじり息杖の定と堀穿あるまましく吹切その日の
 月小地と濃り約下結るるのまじりまは後て井藩と依ると
 物あるは場前口改華初喜八喜子の意ありて堀井戸の在るくが
 九柳ひ小破るる静埋立一池のよう是地表糸地を満て去きある
 ある坊で吹切のものと是也を介小池前井戸の坊する情多くはバ
 かりあるまじりありなり

周小去依又のゆいと歩小地表後井の坊減少る春あると事か
 がたふ縣あり敷又出井戸毎小分添て一人とて下を桶で吹と
 きて汲せると名是又地地の勢る表からるゆも是きあれば一板あり
 と發けほど何とも地表の端るれば是又地を盛べきなり

△甲斐中村大作の十月朔日小
 町中あつて下総の中山へある
 町小次の二日の夜右の地表を
 因之り十かふ令重共す
 江戸へ馳つるものふ十か
 い要つと担ふとの又日の
 赤下より中山を並出のせよふ
 とあやうつまじり自然のりた
 して幸亦押とまを返るはと
 夜更の下刺とあつぬげとと
 十かふ天の庇最般ものも
 ちね道小腰と居るなり



葉巻長壽魚

△深川寺町をりて此の夜を多し一俣の夜果の余に可揺る一と危い山のこ
 と急小取汗汗んあまも今夜の發机希代未皮あまゆ人土の事あま廿日の若持正
 けきど性床の成さたゆやく人とやといち尾と取除させる小一八の男を極
 物一々各スおどろた是と引中一けるふ皆有ては男目とひく死をたとえと
 後ハ何れあるぞと云はれし所あままようち中ゆき一俣と尋るふち流のちの
 為て押傍らま一すといおあ入あうそは後のこまとまうどといつをせ所了奉所ゆの
 日谷のこあうて是も急あ一凡は夜の天変み身焼亡等の旭業案万人と
 ゆる員とまうとまあは世ころの急報ゆて脱がれたりの人共たのまうと
 土中み埋て日ぬとふき共安伴ありのこ是又善果の因縁やといわる死地
 小入とも生命とまふとあ一今眼糸の絶絶あう八ヶ地北島丁使を果引被一折
 宛余微甚とあう悟我人あう其支障い安全中一て危一扱あるとあ一是ゆて原因
 今ハ中て是別五地夜あま太支障い皆引の人もあまのこままうとまうと

△今夜地震より大男の中ふと一と
 江戸丁某といふ八のこいれ智の
 俣ふて大難を脱ん流小中夜一
 十人の子女と又其の身もそのいれ
 こそ安全の俣ん信火いれすて
 あまを明中といふ子行まも残あ
 此夜一う各忙然と一て懼のの
 けきしうとまふいれ共太おあ
 まあの水中小店水とまうと介れ中
 俣とていとまうと若人水中小あ入水と
 まく吞て腹中れあ海をわいた又あ一
 此の建りたれた大穴をいれ本合等の故



法徳情の報あり一有徳のものもの何ぞ常の持と其と煖本居る
大性一つを要し大徳と成ゆま昔極百倍ゆくと死んる要は満てを
心中持初ま一其かちの良善むかへて因は後世の徳とて
一月末町事と流んと身と浪る日本地を近ゆらひちの地居る長
ころりらるも裂て其より足と流し初ゆらひち其らち郭の火と田丁の
ゆものごとくあまゆりせんころり一人の世とあり一其をよむ止て云我ち
報のりか合まよの金百兩をせんころりゆらひちをかたてと格退流し報ゆ
ころり一其の懐より紙布と出ゆ一合と揮盾る仕と志し悪心をのり紙布と引
たつり紙布あまを成るゆらひち梵天帝教の賜受ゆらひちと右曲者い十月九日
右捕る格物格物の取と交るゆらひち後の災いありゆらひち若む他の難とるゆらひ
其の心を危とらうとて報ひ一紙中法の報と云ふまゆらひ止て是善報と稱とて
百とて終何と不足ゆらひ鳴呼る念の報と云ふゆらひとるゆらひと

